月報
岡崎の教育

平成28年7月1日
7月号
市制施行100周年記念号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想…… 1
富士通総研経済研究所
エグゼクティブフェロー
元日本銀行理事（岡崎市出身）
早川　英男氏
この人に聞く…… 2
「一隆堂」店主
井口　昌久氏
羅針盤 …… 2
生活科・総合的な学習指導員
林　尚子
ふれあい…… 3
矢作中　大野　孝輔
特　集…… 4
岡崎市制施行100周年
新世紀岡崎の教育を語る
お知らせ…… 6
フォト・ヒストリー… 8
水車完成　（昭和55年）
この本を…… 8

教育随想

変わる日本の「働き方」と教育

富士通総研経済研究所
エグゼクティブフェロー
元日本銀行理事（岡崎市出身）
早川　英男　氏

筆者は、日本経済の活性化には働き方を変えることが不可欠であり、それは教育の変革を伴う必要があると主張してきた。以下では、教育に焦点を当てて私見を述べることにしたい。

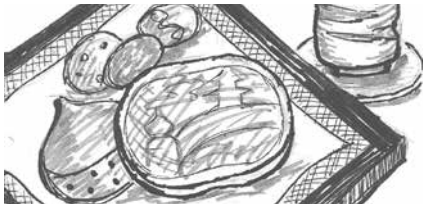
まず高等教育について言えば、かつて日本企業は自前のＯＪＴを重視して大学に職業教育を求めなかった。これは大学に研究の自由を与える一方、教育の空洞化＝レジャーランド化を招いた。しかし、余裕を失った企業は雇用の非正規化を進め、今や誰もが企業内教育を期待できる環境ではなくなっている。人的資本を欠いた若者の貧困化を避けるには、教育機関が職業訓練を担う以外途（みち）はない。メンバーシップ型雇用からジョブ型雇用への転換を展望するなら、冨山和彦氏が唱えるように、いずれ普通の大学はジョブ能力を身に着けさせることを重視する方向に変わっていくだろう。

一方、近代日本の初中等教育は、上司の指示を忠実に守り、勤勉に働く人々を効率的に大量生産してきた。これが工業化社会に適した教育であり、日本の経済発展に貢献してきたことは疑いない。しかし今では、こういう労働者はアジアを中心に世界に十億人単位で存在する。ＩＴを駆使したサービスの開発といった新しい道へ進んだ米国などと違い、彼らと正面から競合してしまったことに日本経済停滞の根本的な原因がある。

そう考えると、これからの日本の若者に求められるのは、新たなサービスを生み出す想像力と、対人的なコミュニケーション能力だろう。その意味で詰め込み教育から生きる力重視への転換を目指した「ゆとり教育」の方向自体は間違いではなかった。問題は、①新しい教育は子供にも教師にも詰め込み教育より難しい、②それでも子供を将来の貧困から守るには能力観の転換が必要だ、という厳しい認識を欠いた点にあったのだと思う。

（はやかわ　ひでお）

この人に聞く



本物の味を届けたい

「一隆堂」店主
井口　昌久　氏

籠田公園から連尺通を歩き、一つ目の筋を入ると、「やはぎ煎餅（せんべい）」の看板が目に入る。手焼きせんべいの老舗「一隆堂」だ。温もりを感じる店内に、岡崎城や矢作橋が型押しされた優しい表情のせんべいが並ぶ。

「うちはせんべい屋一家です。浜松の祖父に始まり、親戚一同、せんべい屋を営んでいました。昭和三十年に父が独立し、岡崎でせんべい屋を始めました。子供のころは、朝から晩までせんべいを焼く父母の姿を見ていました。」

家業を継ぐつもりはなかったと井口氏は笑う。しかし、大学卒業と同時にせんべい職人となった。

「家業を継いだのは、うちのせんべいがおいしいからです。機械で作った香料入りのせんべいと、うちのとは全然味が違いました。父母が一生懸命に手焼きした味を求めてお客さんは来てくれる。その気持ちに応えたいと思いました。」

以後四十年、井口氏は手焼きにこだわったせんべいを作り続けた。

「こんなに軽い型でも、長時間作業するのは結構大変です。型が冷めてはいけないので、焼き始めたら昼まで作業場を離れられません。」

手焼きせんべいに不可欠な鉄製の型は、素人の手にはずしりと重い。この型に油を何層も重ねる「つやつけ」と呼ばれる工程が最も難しいと語る。

「卵を使わないせんべいは『つやつけ』をしないと手焼きできません。半日かけて、約四〇〇度の熱で型に油を焼き付けます。これがうまくいくと、一回一回油を塗らずに四日間焼き続けることができますが、失敗すると一日しかもちません。私も習得まで五年かかりました。」

手焼きならではの風味を追究し、材料の配合、仕込みにもこだわる。

「うちの手焼きせんべいは膨張剤を使いません。水に浸した材料の粉を少しずつ手で混ぜるので、仕込みには一時間かけます。手焼きで火をじっくり通すので、最初は固いですが、次の瞬間から口の中で溶けます。味噌せんべいなら味噌の味、カステラせんべいなら卵の味がふんわりとする。素材自体の味が分かるのです。」

「うちのせんべいはおいしい」という自負と、その味を伝えなければという使命感が井口氏を支えている。

「一日に五百枚程度しか焼けないので採算の面では厳しいです。でも、お客さんには本物のせんべいを食べてもらいたい。若い人にも興味を持ってもらいたいし、遠くから来てくださるお年寄りの気持ちも大切にしたい。手で焼いているのが私しかいないなら、私の身体が続く限りは続けていきたいと思っています。」

優しい味わいのせんべいには、作り手の熱い思いが込められている。

（氏　名　いぐち　まさひさ
生年月日　昭和三十年十一月二日
住　所　岡崎市連尺通）

羅針盤

遊びの中で育む思考力

生活科・総合的な学習指導員
林　尚子

「三角のシャボン玉を作りたい。」

「大きなシャボン玉はできるかな。」

A教諭は授業の始めに、一人一人の子供の思いや願いを発表させた。この授業では、自作の器具を使ってシャボン玉作りをする。一年生の子供たちは、針金や段ボールで作った器具を得意げに参観者に見せ、はやる気持ちを抑えられない。運動場には、シャボン液が入ったたらい、毛糸や針金ハンガー、モールなどを置いた長机が準備されている。A教諭の合図とともに、子供たちは、一斉にたらいを目指して駆け出した。

B児は三角形のシャボン玉を作ろうと必死であった。枠の持ち方や空気の入れ方を変えてみるが、三角形の枠からできるシャボン玉はどうやっても丸くなってしまう。

「どうして丸形ばっかりになるの。」

B児はシャボン玉の不思議に気付き、「なぜ」の答えを探し始めた。

挑戦

矢作中　大野　孝輔

「矢中生の縦の絆を強めたい。」

そんな思いから、生徒会役員のA男は「学年縦割りの連合活動」を行動目標に設定した。六月、初めての連合対抗生徒会レクリエーションを終えた翌日、A男の生活記録には、次のように記されていた。

「イメージとは違うものでした。下学年が遠慮がちです。それに、三年生は、もっと動けたはずです。これで終わってしまうのは悔しいです。」

私は、悔しいと思える前向きな姿勢でいてくれて、担任としてうれしい気持ちであることを伝えた。そして、体育大会を再挑戦の場とすることを提案した。A男は、「やってみたいです」と即答した。

矢作中伝統の応援合戦を連合対抗にスケールアップする。これがA男にとっての再挑戦の場となった。

準備は夏休み前から始まった。各連合の応援テーマに合わせたダンスや衣装を、三年生が中心となって計画し、練習や制作に取り組んだ。始まりこそ順調だったものの、夏休みに入ると、次第にペースが落ちた。集合時間に集まった係を前にしても、的確に指示を出せない三年生の姿があった。一、二年生はどう動けばよいかわからず、待ち続ける。その様子に気付き、A男は慌てた。

A男のがんばりで停滞した状況を再び動かしてほしいと願い、「この程度の困り感は想定内だろう。きっと各学級のリーダーたちの方が現場で困っている。一度みんなを集めて、自分の理想や思いを伝えたらどうか」と話した。A男は、各教室を回り、練習の相談に乗り、助言をした。あいまいな感情論に走らずに、現場が助かる方法を選択した。優しいA男らしいリーダーの在り方を見た。A男の成長だと感じた。

二学期に入ると、一気に活気づいた。A男の思いが、徐々に形になっていく。ある日、一年生の教室で、全ての学年が協力して応援旗を描いていた。私は、これこそがA男が求めていた「縦の絆」が表れた場面だと感じた。応援旗はルール上、応援合戦の得点には入らない。だから、縦割りのものでなく学級オリジナルの作品でいいはずである。すぐにA男を連れてその教室に戻った。見た瞬間、A男は言った。

「こういう感じです。僕のイメージ。」

A男の表情が一気に和らいだことが強く心に残っている。

九月、体育大会当日を迎えた。選手の活躍に学年を越えた歓声が湧き上がる。応援合戦では、縦割り連合の全学年が一丸となって躍動した。応援合戦の結果発表では、順位を聞き、連合が一斉に喜んだり悔しがったりする姿が見られた。まさに縦の絆が表れた場面であった。ふと目を移すと、涙を流す二年生女子の姿があった。彼女は私に、

「あんなに全力で三年生が教えてくれたのに、勝てずに悔しいです。」

と語った。A男に伝えずにはいられなかった。A男は目を真っ赤にして私に言った。

「先生、挑戦してよかった。連合、やってよかったです。」

その姿は達成感にあふれていた。

低学年の子供には、思考しながら表現し、表現しながら思考するという特徴がある。したがって、教師は、子供のつぶやきや行動を注意深く観察し、その中で働く思考を推測する必要がある。そして意図的な対話を通して曖昧な考えを揺さぶり、さらに子供の思考力が働くよう手助けをしていくことが求められる。

B児はやがて三角の枠からは丸い形のシャボン玉しかできないことに気付く。そこで教師が「他の形だったらどうなるかな」と思考を揺さぶる問いを発すると、「他の形の枠でもできるのは丸い形なのかな」という、次の段階の思考を伴った表現につながっていくのである。

この授業では、子供の中に「なぜだろう」という疑問が生まれ、「どうやったらできるのだろう」と解決を試みる姿が見られた。子供の思考力はこのような場面で育まれる。A教諭は子供の思いや願いと、実際の事象とのずれから問題意識が芽生えることを見通した。そして、自由に工夫したり、試したりすることができる環境を整えた。A教諭の仕掛けが、遊びを学びに変えたのだ。

生活科では、遊びを通して科学的な見方や考え方の基礎を養うことが求められる。そのためには、子供の思考の流れに沿った単元を構想する力と入念な教材研究が必要である。

岡崎市長　内田　康宏 氏

2016.7.1
100th ANNIVERSARY OKAZAKI
岡崎市制施行100周年

1 市制施行一〇〇周年を迎えた今のお気持ちをお聞かせください。

記念すべき市制施行一〇〇周年に、市長を務めさせていただき、この上なく名誉に感じると同時に、その責任の重さを感じています。

物づくりはこの地域の根幹ですので、大切にすることはもちろんですが、さらに岡崎には歴史的な文化資産と、街の真ん中を矢作川・乙川という大きな川が流れるという特色もあります。この歴史的文化資産と河川の水辺空間は、本市の大きな魅力だと感じていました。

そして今、市制施行一〇〇周年の節目を迎え、乙川リバーフロント地区整備事業などによって、この魅力が具現化しつつあります。この街づくりは、多くの先輩方が夢見たことだと思いますが、他の都市計画や課題があり、なかなか取り上げることができませんでした。今回、国の後押しを得て、実現されることをたいへんうれしく思うと同時に、まさに天命だと思ってやっております。

2 幼少期の岡崎の様子、当時の岡崎の教育の印象、小学校時代の思い出をお聞かせください。

私が小さいころの岡崎市は、人口がまだ十万から十五万人くらいでしたから、今よりずっと田舎という感じです。国道一号線も舗装されておらず、時折トラックが通る程度でした。

幼稚園の頃、足こぎ自動車で康生町から国道一号線を超えた向こうまで出かけて遊んだことを覚えています。

私が通った連尺小学校は、自由な気風があり、先生方も優しく、のびのびとしていた印象が残っています。

しかし、中学校へ進むと、それは一転しました。

城北中学校では、「勉強もスポーツも両立せよ」という教えのもと、学問の基礎知識をしっかり身につけました。中学生時代の真摯に学ぶ姿勢は、現在の私のバックグラウンドになっており、成長過程の大事な時期だったと思います。城北中学校の思い出は、入学式からよどみなく語れるほど強く印象に残っています。

3 「新世紀岡崎　飛躍祭」という命名は「飛躍祭」を「百歳」にかけているとうかがいました。どんな思いでこれらの事業を考えられたのか、お聞かせください。

「新世紀岡崎　飛躍祭」は市民参加で、市民が主体的に考えて取り組む事業です。この事業は市民の皆さんの要望をもとに進められているものです。

実際に開催される事業を見ますと、その面白さに感心し、実行する力に驚かされます。

また、岡崎市現職研修委員会各部が主催する行事も、市制施行一〇〇周年

▲笑顔でインタビューに答える内田市長

▶未来を見つめる猛々しい若武者　家康像

岡崎市制施行１００周年

新世紀岡崎の教育を語る

を記念した独自の企画を盛り込み、工夫して取り組んでいただいています。

行政だけでなく、市民が一体となって一〇〇周年記念事業が進められていることに、大きな価値があります。

本年、行われる記念事業には、子供たちが興味をもって参加できるものがたくさんあります。子供たちには、これらの記念事業を通して、岡崎の歴史や文化に目を向け、岡崎の魅力を存分に味わい、そのよさを見つけてほしいと思います。そして、岡崎市民の力を信じ、その一員であることに誇りをもってほしいと思います。

4 将来、岡崎の子供たちにどんな市民に育ってほしいとお考えですか。

本市には、家康公をはじめとした歴史や文化の魅力がたくさんあります。現在取り組んでいる記念事業には、岡崎をもっと好きになってほしいという願いが込められています。

子供たちにも、これまで以上に、自分の生まれ育った町に愛情をもって見つめる目をもち、誇りに思ってほしいと考えています。岡崎の歴史や文化、自然、すべてを含めてです。

そして、夢ある新しい岡崎づくりに積極的に参加できる市民に育つことを願っています。

5 そのために、岡崎の教師に期待することをお聞かせください。

残念なことに現代は、なかなか夢をもちにくい世の中になってきています。先生方には、子供たちに夢を語れるような教師になってほしいと思います。

また、個人の才能というのは、様々であって、発現する時期もそれぞれ違います。才能の内容も違うと思います。そういう子供たちの多様性を理解できる先生になってほしいと思います。今、その子の才能が開花していなくても、子供たちの未来の可能性を信じ、大切にできる教師であってほしいと思います。

子供に関わる主な市制施行１００周年記念事業

- HOPE プロジェクト
  （スポーツ・アート・サイエンスの各種教室等）
- 食育メッセ（展示・体験型イベント・御馳走屋敷など）
- 生徒市議会中学生フォーラム　岡崎こども 100 年宣言
- 中学校総合体育大会（入賞者に１００周年記念メダル）
- 岡崎市制 100 周年記念祝祭演奏会
- おかざきの心の歌とクラッシックコンサート
- 造形おかざきっ子展
  （ダンボール造形作家　玉田多紀氏のワークショップ）
- 小中学校技術・家庭科作品展
  （出展者に木製 100 周年記念しおりの授与・おかざき匠の会と連携した体験コーナー）
- 小中学校理科作品展
  （出品者に 100 周年を記念メダルの授与・プラネタリウム・特設パネルの展示）
- おかざき 100 年祭
  「集まれ！おかざきっ子～ 100 年祭遊園地～」
  「バースデーパレード」
  「おかざき 100 年展ー市制 100 年のあゆみー」

▲ちびっ子にも魅力ある街に　恐竜像（東公園）

▲心身を鍛え、学区を走る城北中学校の生徒（昭和３７年）

●ハートピアだより

自分を高めていく居場所として

適応指導教室ハートピアは、児童生徒の学校復帰を目指す支援の場としての役割を担っている。通所生は誰もが「登校できるようになりたいと」面談で答える。学校に行きたいと思っていてもなかなか足が向かない、朝起きられない、周りの視線が気になるなど、幾多の不安を抱え、苦しみ悩んでいることが伺える。だからこそ、この施設でリラックスしてゆったりと時を過し、自信を取り戻してほしいと願っている。

通所生が楽しみにしているのは、午後からの活動の時間である。この午後の活動は、指導員にとって体力勝負である。エネルギー溢れる通所生相手にドッジボールやサッカー、時として尻尾取りにと走りまわらねばならない。ボールは勢いよく飛んでくるし、追いかけられるとあっては、息も絶え絶え、容赦はしてくれない。しかし、我を忘れプレイに夢中になる通所生と共に活動していると心地よささえ感じる。室内はUNOやニムト、ビッグテンなどのカードゲームそれに加え、オセロ、将棋は人気である。このような遊びが人とのかかわり合い方を学ぶ場となっている。

うれしいたよりが学校から入った。修学旅行に参加できたことをきっかけに、教室で授業を受けることや部活動への参加も出来たとのことであった。所員一同大喜びであった。学校の受け入れ態勢や級友の思いやりが仲間と共に過ごしてみようという気にさせたのだろう。

今後とも通所生の学校復帰を願い、安心して過すことのできるホットする居場所として支援していきたい。

▲　かかわりを生むボール遊び

●少年自然の家

キャンプ・シーズン到来

少年自然の家の体育館正面には、「山のなかまと」という自然の家の歌が掲示してある。

山の緑と鳥の声
おいしい空気をいっぱいすって
落ち葉スキーに川遊び
汗を流した夕やみに
キャンプファイヤー囲もうよ
さあさ
山のくらしの始まりだ

何度歌っても心が弾み、微笑んでしまう歌である。しかし、この歌詞を見たある学校の児童が、「先生、僕たちこの歌の中のもの、一つもできなかったね」と言って立ち去ったことがあった。楽しみにしていた山での生活が、三日間とも雨天案になってしまった児童の、ため息混じりの一言だった。

各学校では多くの時間を費やして準備をして来所する。準備を進めるなかで、日に日に楽しみが増えて、やっと当日を迎えたのに、当日は雨天だったということもある。雨天案の充実にも、配慮したいものである。

さて、こうして利用してくれる小中学生のために、自然の家でも、冬場からロッジやテントサイトの手入れをしてきた。さらに今年度は、時間のかかる物品返納もスムースに短時間で終えられないかと、次のような改善案を考えてきた。

①まな板を牛乳パックで代用し、使用後は燃やすことで洗う手間をなくす。

②学校によっては、飯ごうを持参し、点検も学校側で行う。

③重い鉄鍋に替えて、軽いステンレスやアルミの鍋の使用も検討している。

他にも、入所式、退所式、各オリエンテーションの時間を短縮するなど、子供たちの活動時間をプログラム通りに確保するために、何か改善できることはないか案を練っている。また、実施校との事前打ち合わせについても、指導員がその短縮に向けた取組みを始めている。

春が過ぎ、夏本番を迎えようとしている今、少年自然の家では、鳥やカエルの鳴き声が元気よく聞こえ、先月までは見えなかった川魚や昆虫たちが活動し始めている。

いよいよ自然の家も本格的なシーズン到来である。

▲『安らぎコーナー』淡水魚を飼育

●表　彰

◆愛知県小学生学年別柔道大会

○六年男子　50kg級の部
優勝　本宿小　竹市　裕亮

◆愛知県小学生相撲選手権大会

○二年
優勝　常磐南小　鈴木　龍

○五年
優勝　常磐南小　鈴木　虎

●第六十回岡崎市中学校総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位	
陸上競技	男	六ツ美	翔南	竜海	
	女	甲山	城北	岩津	
バスケットボール	男	矢作北	北	城北	六ツ美北
	女	葵	南	六ツ美北	甲山
バレーボール	男	矢作北	矢作	竜海	甲山
	女	東海	常磐	葵	竜海
ソフトテニス	男	矢作	矢作北	東海	新香山
	女	翔南	竜海	城北	河合
卓球	男	矢作	翔南	額田	矢作北
	女	北	葵	南	額田
剣道	男	北	矢作	竜海	六ツ美北
	女	矢作	六ツ美北	竜海	矢作北
ハンドボール	男	六ツ美	竜南	葵	
	女	六ツ美北	美川		
軟式野球	男	北	六ツ美	美川	矢作北
ソフトボール	女	矢作北	北	竜海	甲山
柔道	男	竜海	矢作北	矢作	六ツ美北
	女	矢作	甲山	城北	六ツ美北
サッカー	男(女)	竜海	南	新香山	福岡
水泳	男	翔南	矢作北	矢作	
	女	葵	北	矢作	

●水泳競技（個人成績・1位のみ）

性	種目	氏名	校名	記録
男子	50m自由形	市川翔太	竜海	27″11
	100m自由形	三原誉也	矢作北	1′00″02
	200m自由形	酒井祥大	翔南	2′14″99
	50m背泳ぎ	築山稜平	翔南	31″30
	100m背泳ぎ	飯海修斗	竜海	1′08″26
	50m平泳ぎ	小野稜太	甲山	34″92
	100m平泳ぎ	永井豪	矢作北	新1′08″87
	50mバタフライ	竹下和輝	翔南	27″99
	100mバタフライ	仲平千尋	六ツ美北	1′01″51
	200m個人メドレー	三浦空竜	竜南	2′23″67
	400mメドレーリレー	築山・酒井・竹下・矢澤	翔南	4′28″43
	400mリレー	竹下・矢澤・酒井・築山	翔南	4′03″71
女子	50m自由形	杉町瞭香	北	新28″78
	100m自由形	鈴沖日菜	北	1′05″67
	200m自由形	羽根田琴	六ツ美北	2′22″23
	50m背泳ぎ	片山京香	甲山	33″60
	100m背泳ぎ	久田麻白	北	1′12″49
	50m平泳ぎ	宮田唯月	葵	37″59
	100m平泳ぎ	岸原さくら	城北	新タイ1′17″59
	50mバタフライ	與五澤美希	葵	30″69
	100mバタフライ	今村晶	北	1′07″55
	200m個人メドレー	太田菜月	福岡	2′53″59
	400mメドレーリレー	久田・鈴沖・今村・杉町	北	4′48″90
	400mリレー	鈴沖・今村・久田・杉町	北	新4′16″44

●陸上競技（個人成績・1位のみ）

性	種目	氏名	校名	記録
男子	OP1年100m	山下侑冴	竜海	12″3
	100m	細江竜矢	翔南	12″0
	200m	角廣陸	翔南	24″3
	400m	髙畑永遠	矢作北	54″8
	800m	柴田快飛	北	2′10″8
	OP1年1500m	竹田優作	矢作	4′50″7
	2年1500m	永田将也	甲山	4′25″4
	3年1500m	永井翔真	矢作北	4′23″9
	3000m	近藤総司	東海	9′28″9
	110mH	岩堀剛己	新香山	新 15″4
	400mR	三浦③ 細江③ 竹内③ 角廣③	翔南	46″8
	低400mR	塩谷② 山下① 松浦① 小林②	竜海	49″7
	走り幅跳び	保条幸輝	竜海	5m84
	走り高跳び	櫻井誠也	岩津	1m65
	砲丸投げ	中田和輝	六ツ美	11m18
	棒高跳び	石川颯	矢作北	3m50
女子	OP1年100m	土居心愛	竜海	14″1
	100m	髙須鮎香	城北	12″9
	200m	田中海来	甲山	27″5
	OP1年800m	高橋菜奈花	六ツ美	2′34″3
	800m	浅野智尋	岩津	2′24″5
	1500m	木村栞	岩津	4′58″7
	3000m	渡辺萌梨	六ツ美北	10′35″6
	100mH	井上理沙	矢作北	16″7
	400mR	鳥居③ 永井③ 田中③ 谷口②	甲山	51″7
	低400mR	髙木② 澤田① 齋藤① 岡田②	矢作	55″1
	走り幅跳び	髙須鮎香	城北	新 5m53
	走り高跳び	岡あかね	北	1m50
	砲丸投げ	渡邊柚帆	福岡	11m40

新…大会新記録

【新記録】

低400mR	髙木② 澤田① 齋藤① 岡田②	矢作	54″1

※上記の者は、予選で新記録を達成

●柔道競技（個人成績・1位のみ）

種目	性	階級・部門	氏名	校名
柔道	男子	軽量級	太田隆介	六ツ美北
		軽中量級	松本侑真	矢作北
		中量級	竹市大祐	東海
		重量級	趙云洋	北
	女子	軽量級	野村莉音	城北
		軽中量級	俊百々香	矢作
		中量級	都築結衣	六ツ美北

水車完成
（昭和55年）

写真提供：本宿小学校

学校のシンボルである水車の前で、卒業アルバム用に撮影した写真である。学校敷地内の東山に、こんこんと湧き出る清水を教育に生かそうと、地域を挙げて計画し、完成に至った水車である。斜面に縦二つ並んだ水車は、子供たちの澄んだ瞳を水面に映し、清らかな心を醸成してきた。四季彩々の景色を背景に、今も変わらず子供たちを見守り続けている。

市内の多くの学校で、学区の人々の願いや協力によって、さまざまな特色ある環境が整備されてきた。携わった人たちの思いと共に、ある時は憩いの場として、またある時は学びの宝庫として、今日も活用されている。

・カット　細川小　吉田　真由子

＊ハーバードでいちばん人気の国・日本　佐藤　智恵
ＰＨＰ研究所　￥800

心に残った一文

日本企業の事例はどれも「お金で人は動かない」「人を大切にせよ」と本質的なことを教えてくれる。

多くの日本企業の取組がハーバード大学で授業の教材となっている。その理由は、日本人の気質にある。自律性や責任感を重んじる日本の美徳は、今や世界が求める人材を育てる範となっているのだ。日本人として、若干の誇りを感じ、うれしい気持ちになる。

お金で人を動かすには限界がある。心ある人間の育成に、ハーバードは真剣に向き合っているのだ。厳選されたエピソードに、興味は尽きない。

＊ラグビー日本代表を変えた「心の鍛え方」　荒木　香織
講談社　￥840

＊県庁そろそろクビですか？　円城寺雄介
小学館　￥780

＊富士山大噴火　藤井　敏嗣
徳間書店　￥1,300

細川小　中垣　明道

ホッと

井口氏は仕事柄、各地のせんべいを口にする機会が多い。そして、国産の素材と手焼きにこだわった自分のせんべいがいちばんうまいと、井口氏は笑う。

「本物のせんべいを食べてほしい。」本物を求め、一切妥協しない職人のこだわりを見た。

東照公生誕の地岡崎は、歴史と文化の薫り漂う独特の魅力をもつ。

この地に生まれた子供らに、その魅力を伝えたいと、内田市長は熱く語られた。

今、岡崎は、次の一〇〇年に向け、新たな一歩を踏み出そうとしている。子どもたちの飛躍の機会としたい。

文目

ツバメの親が気忙（きぜわ）しそうに巣を出入りする。生まれたころと比べると、ずいぶん成長した雛鳥だが、未だに張り裂けそうな口を開け、餌をねだる。体は大きくなっても、しぐさは幼いころと同じだ。

大きな体にあどけなさが残る中学生の姿と重なった。

（アサガオ　上地小）